

会 議 録

会議の名称	中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）の修正案について 市民説明会
日時	平成 28 年 5 月 29 日(日) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 05 分
会場	中野市立日野小学校体育館
出席者等	・参加者 17 人 ・教育委員会出席者 8 人 教育委員長、委員長職務代理者 教育次長、学校教育係長、事務局 4 名 ・報道機関 1 人 (北信ローカル)
次第	1 開会 2 あいさつ 3 基本方針（案）修正案について 4 質疑 5 閉会
その他	添付資料：基本方針（案）修正案 発言内容は別紙のとおり

(別紙)

中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）の修正案について市民説明会

日時 平成 28 年 5 月 29 日（日）
午後 3 時 00 分～午後 4 時 05 分
会場 中野市立日野小学校体育館

1 開会（PM3:00）

・進行：教育次長

2 あいさつ

・教育委員長あいさつ

3 基本方針（案）について

・教育次長から資料の説明

4 質疑

意見

○ 私は 8～9 年前に教育委員をやっており、その頃から少子化の問題等で委員会内で話し合った記憶があります。そのなかで小さい学校と大きい学校、どういうメリットデメリットがあるかというようなことから始めて、中野市の教育の理念としてどういう方向性に持っていけばいいのかというような話し合いをした記憶があります。今回の基本方針案を見ると小学校中学校の統合の問題だけを全面にだして、最初の中野市の教育のどういう方向性を生み出していくのかははっきりしない間に、人数が少なくなったので、こことここを合わせようとかそういった話になっているように感じます。その中で特別委員会のようなものを作って検討されたようですが、そのなかで一番中野市が素晴らしい教育をするための目標というものがどんな形で討論されたのか、またどんな形で形成されているのかを考えながら、それを達成するために今の事業があるのなら分かるのですが、その点を皆さんに分かるように説明していただければ有難いと思います。

回答

○ 今の質問でございますが、審議会の委員会の事をおっしゃっているのですか。

意見

○ 教育委員会の中の話しあいと併せてお願いします。

回答

- 少子化が進むということで、教育委員さんを中心にだいぶ前から色々な議論をし、その他皆さんの意見を聴く場を設けて、その後審議会を立ち上げて今回の基本方針案策定となりました。統合の話ばかりで具体的なビジョンが見えないということでございますが、教育委員会といたしましては、「ひと・もの・こと と関わりあいながら学びあい支えあい未来を切り開くたくましい子ども」を目指す子どもの姿とし、市の広報なかのに毎月一回教育委員会の特集等を行って皆さんにお伝えしてきたつもりでございます。その中で「ふるさとへの愛着と豊かな社会性を身につける教育の推進」を基本理念とし、集団で学びあえる教育環境を整え、子どもたちが今後社会に出て行ってほしい願いの中で統合という形をお出ししています。審議会の方でも、ある程度のクラス数や児童生徒数がないと、切磋琢磨しながら社会性を身につけたり、競争性を身につけることが必要ということで、小学校については各学年2クラス以上、中学校は3クラス以上という答申になっております。1クラスに何人が適正なのか色々な議論はありますが、総合的に考えた場合、ある程度の人数ある程度のクラスが必要であると考えています。
- 市内には4つの中学校区がありますが、北部地域と豊田地域の小学校で、現在1クラスの人数が3～4人というところがあり、通常の授業はクリアできている状況ではあります、専門的な分野とか集団で学びあえる環境を考えた場合、運動会や音楽会などで先生達は非常に苦勞なさっています。今回具体的に基本方針案の中には具体的なビジョンは出ておりませんが、ホームページでも公開していますが、中野市教育大綱というのがあり、教育委員会と市長で意見を交換し、目指すこどもの姿、基本理念、あるいは5つの柱となど、様々な政策的なことを打ち出しています。
- それぞれの中学校区でキャリア教育や教育力向上プランを掲げ、4中学校の整合を図りながら、それぞれの学校の特色を活かしていく、これも教育委員会では非常に大事にし、今回の基本方針案に至ったということでご理解をお願いいたします。

意見

- このような質疑会等で討論するにあたり、中野市の教育のトップの理念があり、その下で中野市民や子どもはみんな平等ですよね。教育委員が終わる最後の頃には中学が3校ぐらいで、あの時点で県からは小学校は2クラス以上、中学校は3クラス以上というような話が出ていました。2クラスを基準に小学校を作ったところは、また少子化になってくると1クラスになるという考えも出てきますので、2クラスが適正だったらできれば3クラスに目標にした方がベターだと思っています。中野市の場合、豊田地区も中野市に合併されて地区の色々な文化とか伝統がございますので、各地区ごとにお願ひしながら行政が進んでいくといいと思います。子どもには同じ教育をぜひ最低限やっていただきたい。もっと教育委員会の方でそれなりの信念を持って私達に理解できるような説明をしていただければ有難いと思います。

回答

- 文科省でも中学校3クラス小学校2クラスというような基準を設けており、それがベストだと思います。前回の説明会でも中野小・平野小が一番多くて横ばい状態、あとは減っているというなかで、市内の通学区域をすべてリセットして、おっしゃったとおり平等という考えがありますが、やはりそれぞれの地区で伝統的なものがありまして、なかなか単純に通学区域だけを変えるというのは厳しいと判断しました。
- あとは北部地域・豊田地域で子どもさんを持つ保護者の方から非常に多く寄せられた意見のなかで、このままの状態で子どもがその学校に通うのは厳しいとか、もう少し集団で学ばせたいという意見が出まして、そこを当面早く進めたいと考えています。
- 若干信念を持っていないのではないかというお話でございますが、市内一斉にできればいいですが、これで決めていただいたとしても、3年ぐらいの歳月は掛かってしまいますので、若干変則的ではございますが高社中学校区・豊田中学校区を先にやらせていただきたいと思っています。

意見

- 地域との連携による「ふるさと学習」を核とした学校運営をさらに推進するとあるが、さらにということは何か今やっているということだから、具体的なことを教えてください。今後統廃合に関わってどういう形でこの「ふるさと学習」としてやっていくのか教えてもらいたいです。

回答

- 「ふるさと学習」につきましては、現在それぞれの学校で地域ごとに特色を生かした学習に取り組んでいただいておりますが、日野小学校さんの場合には、中山晋平さんの生誕地の学校ということで音楽活動や交流など色々な場面で学習しています。今回教育大綱にも掲げておりますが、キャリア教育の推進の中で、それぞれの学校でそれぞれのグランドデザインを設け進めています。
- もう1点は市長との懇談会のなかで出ている話ですが、やはり中野市は音楽も大事にしなければいけません、農業が主流ということで、農業を生かした教育ができないかということで、農業を学ぶことに力を入れています。放課後や生活の時間の中で、子どもたちに種植えから収穫までの喜びを味わうとか、そこで採った食材を生かした給食を提供するとかそういった形で行っています。目指すものとするれば、それぞれの地域を生かした「ふるさと学習」です。
- あと信州型コミュニティスクールを平成29年4月1日に立ち上げようとしており、各学校のPTAの方や有識者、地域の方で委員会をこれから立ち上げまして、学校へのお手伝い・学校への参画をしていただき、地域の皆様のお知恵を拝借しながら、昔ながらの物づくりとかそういったことも、子どもたちに教えていこうということで今進んでいます。

- 学校の ICT 教育の推進ということで、コンピューターを活用した授業、これは文科省の方でも推薦していますが、特に中野市ではかなりのお金を投入して、電子黒板やタブレット端末を配備して ICT 教育の推進も進めています。
- もう一点キャリア教育ですが、小学校では、一流アスリートを講師に迎え、実際体験した話を聞いて、夢を持つ素晴らしさや夢を持ちながら働くことの喜びを伝えています。また、中学校では、地元で活躍する方々をお招きし、地元愛のセミナーなど開催しておりますので、この辺を進めながら、各学校と連携を図って教育大綱のなかの政策を推進していきたいと考えております。

意見

- 色々な報道を見るなかで、教育委員会さんは大変な作業をされていると理解はしております。例えば北部地区の小学校では、4年先そんな悠長なことで・・そのような見出しの記事がありました。つい最近のローカル紙では1年前倒しも可能みたいな記事も載っていました。いずれにしてもせっかく見直しされてこういう事でやりたいのだということで進んでいますが、ちょっとぶれるような面が見受けられます。むしろ計画にそって、私達はこういうことでやるのだと力強くやるのならやってほしいと思うのです。
- それは前段ですが、北部の学校については保護者の切実な声も載っていたわけなのですが、実際保護者の皆さんの気持ちが非常に分かる気がします。保護者でなく実際そこで学んでいる子どもたちの声というのは聞かれることはあるのでしょうか。
- 見直し案のスケジュールの中で、かっこ書きのところなのですけど（市民説明会で理解が得られた場合の）と書いてありますが、理解が得られた・得られないというのをどういうところで判断するのでしょうか。
- 3点目は、日野小学校の前回の最初の説明会の時、大多数の方は統合にあまり賛成できないということだったと思いますし、私も現時点ではその気持ちは変わりなく持っているつもりなのですが、これはお聞きしたいところではないのですが、前回の説明会のように皆さんの熱気は引き続き持っていききたいなという気持ちでいます。

回答

- まず子どもたちの声でございますが、この説明会のために聞いたという事ではございませんが、平成 24 年 9 月に審議会を立ち上げまして、平成 26 年 9 月までの 2 年間審議を行いました。そのなかで審議委員さんの皆さんが全小中保育園まで保護者アンケートを取り、その声を拾ったなかで審議会といたしまして答申を出したところがございます。たしか回収率は 80%位あったかと思いますが、そこで一応聞いてあるという事でございます。そのなかで若干ですが子どもたちが直接書いたものもあります。小さいけれど学校は無くさないで、もっとみんなと遊びたいなど賛否両論です。
- あとスケジュールの中の理解を得られるという部分でございますが、理解というのは今回の説明会参加者の意見、パブリックコメントでの意見、あるいは地域に出ている色々な意見を拾うなかで、多数決で決めるわけではないもので、その時の状況を総合的に見ながら、最

終的には教育委員会でこれで行こうとなった時には、市長と総合教育会議をもちまして、そのなかでこれでいくという方向を決めていきたいと思っています。

- ただ、一方的に進めるのではなくて意見として聞くものは聞いて、そのなかでご理解をいただきたいと思いますが、今回お示しした修正案でぜひ行きたいという風には考えておりませんのでよろしくお願いいたします。

意見

- 当然この方針で行かれるという事で理解はしていますが、出来るだけ多くの方の意見を十分聞いていただいて、理解を得ながら進めていっていただければと思います。

意見

- 1点だけお聞きしたいのですが、昨年度の説明会では反対とか慎重とかそのような意見がたくさんありました。その中で今回日野小と延徳小の統合については先延ばしという格好になったかと思います。ここの先延ばしはいいのですけれども、ここの赤字の字をよく見ると「ひと桁の学年が複数となることが見込まれる状況になった時に、改めて検討を行う」という言葉があります。今年度たまたま入学式に出させていただいたのですけれども、新入生10人だったのですね。あとひと桁のその後の新入生の見込みですが、5歳児や4歳児そこから辺を見込まれて先延ばしがいくらかも時間がないような気もしないでもないのですが、そういう来年以降の日野小学校の入学児童の見込みというのをもし把握されていたらお聞かせ願いたいと思います。

回答

- 児童の推移でございますが、あくまでもその地区で生まれてきている子どもについて捉えていますので、その子が実際にどの学校に行くかどうかは分かりませんが、地区として判断した場合には、現在平成34年まで数字上は出ております。このなかでひと桁になるのはございません。大体10~13、14人ぐらいに推移していているのが日野小の現状でございます。

意見

- ありがとうございます。そういうことであれば少し時間に余裕があるかなと思うので、それぞれ関係機関とか皆さんに意見を聞いたりして、より良い方法を見つけられるかなと思っています。少しは安心しました。

意見

- 申し訳ありません。何点かありますので区切らせてお伺いしたいと思います。今の質問に関連してですが、平成34年まではひと桁にならない、その後はどこに行くか分からないというお話もありましたけど「ひと桁の学年が複数となることが見込まれる状況になった時に改めて検討」というのが新たな修正案であります。「改めて検討を行う」の中身についてお聞かせをいただきたいのですが、単に日野小と延徳小の統合という検討をお考えになっておられ

るのか。南宮中学校区では、中野小・日野小・延徳小、現状南宮中6クラス規模かなという感じであります。もともとの統合案では、日野小と延徳小が統合して小学校が出来てもやがて1学年1クラスになる時がやってくる。2クラスが適当だというされているのに、その部分を含めた検討されているのか、まずそこをお聞かせ願いたい。

回答

- 「改めて検討する」という内容につきましては、単純に日野小と延徳小という事ではなく、通学区の見直しも視野には入れてございます。ただこれはそう簡単な月日ではいかないと色々な意見を聞かなかで出ておりますので、何年か議論する必要があるのではないかと思います。

意見

- 学校の通学区の見直しも含めてということで、これは相当時間のかかる事だと思いますが、将来的にはこうなるという事が次第に分かってくる時点があるわけで、そうなった時にどのような検討がなされてきているのかという事をやはり市民の皆さん、特に関連の地区の皆さんにはよく情報を提供していただいて、ご説明をしていただかないと、様々な混乱を招くかなと思います。多分教育委員会でも色々お考えになっていかれるのだと思いますが、その辺の検討経過をぜひ情報公開をしていただきたいと思います。
- 地域との連携による「ふるさと学習」を核とした学校運営ということで、先ほど具体的に農業を学ぶとか、コンピュータ活用、アスリートに様々な体験を語っていただくというような話がありました。そのキャリア教育に関する部分というのは、ふるさと学習とはとても言えないと思います。これが地域との連携によるふるさと学習なら、教育委員会がメインになって進めていかれる。でも今は、たぶん学校お任せだと思います。その地区の学校の中で、どんなものが地域に協力をいただけるのか、それぞれの学校で様々な工夫を凝らしながら進めて行ってくださいというのが、実情だろうと思います。地域との連携によるふるさと学習とはいったいどういうものなのか、教育委員会でしっかりと議論をしていただき、地域の方を呼んで何が出来るか、本当によく考えていただかないと、私はふるさと学習を核とした学校運営には全くならないと思います。
- ふるさと学習を核にした学校運営というのが、学校を統合することによって、どういう進化をしていくのかということをお示しいただかないと、理解が出来ませんので、そこをどうお考えになっておられるかをお聞きをしたいと思います。

回答

- 中野市教育大綱の中で、ふるさと学習の推進がまず第一の柱としてございます。この中でうたっているのが、地域の特性を生かした自然、先人の偉業、あるいは文化芸術の素晴らしさを伝えるということと、農業体験を通じた学習、地域の有形無形文化財等の保存、活用の継承をする学習の場を提供、充実ということでございます。先程キャリア教育の推進と言った

のですが、これについてはふるさと学習の推進という意味で言ったのではなく、中野市の柱という中で言ったつもりであります。

- ふるさと学習の運営の進め方ではありますが、これについても確かに学校任せの所があります。その中で、平成 25 年位からですか、それぞれの学校のグランドデザイン、目指す学校、あるいは目指す学校目標というのを教育委員会や教育委員会の中にいらっしゃる先生とチームを組み、色々な場で議論しています。人任せではなくて、それぞれの立場のそれぞれの意見を議論して、やはり目指す方向性を一致させながら、ふるさと学習に取り組んでいきたいと考えております。
- 先ほど若干説明いたしました、平成 29 年 4 月から信州型コミュニティスクールの立ち上げを予定しており、統合になった場合はどうするのかという話があります。北部地区が統合になった場合の枠組みなど特に進んでいます、例えば統合があつたとしても、地域の信州型コミュニティスクールはそのまま継続し、教育委員会といたしましてもバックアップして参りますので、ご理解いただきたいと思ひます。

意見

- 今、北部 4 小学校の話が出ましたが、北部の 4 つの小学校というのは、今まで色々なことで学校間で関係してきたんですよね。例えばメディアリテラシーの部分であるとか、そういうような事で 4 小学校の子どもが同じ課題について考えましようとか。ところが日野小と延徳小の場合を考えた時に、双方の連携で色々な取り組みをやっていきたいと思いますということは今までは無かったわけですよ。是非、今、統合問題、これはもうどこかで避けては通れない問題だと思ひのですが、じゃあこの新年度から新たに、日野小と延徳小でどこかと同じような土俵で、こういう取り組みをやりましようというような事が既に企画をされているのか、その辺はどうなんですか。

回答

- 確かに北部の 4 小学校につきましては非常に人数も少ないということで、交流があつたり、色々な部分で盛んになっています。日野と延徳につきましても、ちょっと今、手元に資料がないのですが、交流は若干やっていたような気はします。今後ですが、中野市教育大綱の中でも、今回のこの基本方針でもいっておりますが、小小連携とか小中連携、これが非常に大事ということで、学校と連携を図りながら、ご意見を踏まえ検討していきたいと考えております。

意見

- 信州型コミュニティスクールの件ではありますが、今ある例えば北部の 4 小学校であれば、既存の小学校ごとにコミュニティスクールという形でもって行って、それが統合小学校になった時も、それぞれの地区でやってきたものをより集めて、更に拡大して行って、また例えばその元の倭小、科野小、平岡小、長丘小の子どもたちが、その地区に帰っていった時に何かそこでも色々な取り組みが出来るといふような、そのような母体になる活動も併せて、

コミュニティスクールの活動が今後もあればいいと思います。小学校の建物はたぶん残っていくのだらうと思いますが、その活用の一つのあり方として、是非、地域と子どものつながりを断たないよう、取り組みをきちんと推進をしていただきたいということをお願いをして終わりたいと思います。

回答

- 信州型コミュニティスクールにつきましては、もし統合があったとした場合でも、それは残して発展させていきたいと考えておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

意見

○ 教育委員長さんがお見えになっておりますのでお聞きしたいと思いますが、中野市全体の子ども達を増やすための施策としてどのような方策を教育委員会として捉えたのか、かつては教育委員会と市長が年に数回、月に1回位は話し合いをされて教育現場と行政現場との話し合いをされて、住宅団地なり又は市営住宅なり、等々の施策を講じられてきておりますけれども、ここ数十年間はそういった施策はほとんど講じられていないのが現状だと思います。特に教育委員会として行政にどのような事をお願いしてきて子どもたちを増やす努力をしてほしいと、こういった方法があるのではないかというような事を協議されたことはあるのか、それによってすなわち中野市の基本構想が出来るのだと思う訳でございます。そして基本構想が出来たうえに立って基本計画が出来て、そして実施計画に移って行政が回っていくというふうに思っております。ですからそのきちとした計画性が整っていないからこのようなことが、要するに子どもたちが少なくなってきたからこういうことをやるんだという。それであるならば、今、ここにありますとおり30年間で約6割減ったと、じゃあもう30年間経つとどの位になるのか、こういうふうに問われると思うんですよね。ですからそれをいかにして食い止めて中野市が住み良くて子どもたちが健やかに育つ、そして子どもたちが多く育つ、そういった環境を作っていくのが教育と行政の現場ではないかと思うのですが、その施策がどのように講じられて今日まで来ているのか、ご説明していただければありがたい。

回答

- 教育委員会として人口増加策をどう考えて、また実行しているかというご質問でしたが、教育委員会独自では人口増加策ということには取り組んでおりません。ご承知のように市のほうで人口増加対策はやっておりますが、ただ、今まで確かにその事に関しては、私もまだ3年目ということで、その以前の教育委員会の内部のことは、本当に知っている訳ではございませんが、たぶん本当に長い間そういうことには教育委員会ではやってこなかったと思っております。この説明会が昨年始まってから、地域の住民から教育委員会がもっとその事を考えて実行していかなければだめだというような、今と同じようなご意見、各地区で頂いてございますので、教育委員会内部でもその事に付きまして話し合っているところでございます。また、市長さんを含めての総合教育会議の中で、また改めて市長さんにそのような事も要望していければと思っているところでございます。

意見

- 関連してお聞きしますが、教育委員会としても行政にこういうものを作って欲しいという提言はしていてもいいと思うんです。その事が今日まで何でなされなかったのか、市長と月に1回位の話し合いはできていいと思うんです。それが行政であり教育業だというふうに思うんです。それを怠っていてね、そして全然施策がないということはあり得ないと思うんです。例えば、平野小学校が多いということは、長嶺団地が多いんですよね。あれが出来てからどっと子どもたちが増えた。そういった施策を当時の市長は講じたわけです。工場団地を持って来る、市営住宅を作る、市営住宅を改築して若者が来る、そういった施策を講じるのは行政なんです、それを後押しするのが教育委員会で、そういうことによって子どもたちが増えて、ああ中野市は住み良い所だということで全国的にも住み良いランクで1位2位を取れるような、そういった行政になっていくんだと私は思うんです。そういった行政を後押しする教育委員会にして欲しいんです。だから教育委員長としてどんな方針でこれから行政にどのような提言をされるのか決意をお聞きしたい。

回答

- 今、長嶺の話が出ましたが、今、長嶺は本当に子ども少なくなっておりまして、平野地区は岩船、吉田、江部地区での件数の増加とアパート増によって、平野地区は私の子どもが出た頃より200人位、児童が多くなっています。中野市で唯一、人口増加しているところですが、これは本当にひとつの例で、確かに増えている地区もあります。先ほども言いましたが、本当に同様の意見を各地で頂いておりますので、教育委員会の中でそういうことも話合っております。本当に前向きに、自分たちも市長さんへ人口増加策なくしては、本当に二度三度この学校統合を繰り返すことになっていきますので、強くまたこれから働きかけていきたいと思えます。
- 補足ですが、この中野市の基本構想、基本計画を作るときに、総合計画審議会をお願いしているわけですが、委員さんのメンバーの中に教育関係者も入れております。提言として、未来のふるさとを担う子どもたちを育つまちづくりとか、ふるさとを学び育つ文化の町づくりがあり、これに反映させるように、教育委員会でもいろいろな施策は行っておりますので、特に何もやっていないというわけではありませんので、ご理解をお願いいたします。

意見

- どういう学校を作れば、中野市でお母さん方や子どもたちがどんどん入ってきて、この学校へ入れたいと、そういう学校を作るという目標があってもいいじゃないかと思って聞いたのですが、その答えがないから残念でなりません。

意見

- せっかくなこういう話になってまいりましたので、これもひとつの要望ですが、中野市には北信総合病院というこの辺の医療をしっかりと担っている医療機関があります。その前医

院長の小田切鉄太郎さんが病院の再構築にあたってこういうことを提言されておりました。中野のまちには是非、子どもたちが医療とは一体なんだ、将来自分も人の命を救う仕事に就きたいと、そういうことが自然に思えるようなまちづくりを進めてもらいたい、そういう意味合いで病院再構築にあたって400人位のホールを作っていく、それから地域と病院との連携というのを大事にした病院にしていくんだという、そういう構想のもとに今、北信病院の再構築が進められているわけです。私、言われることはごもっともだと思うんですね。これからの長寿社会を支えていくには医療の充実、地域の中で自分もそういう仕事をやってみたいという人たちを育てていくというのは、大変ひとつの地域の中での大きな使命なのではないかなと思っています。そういう意味で北信病院との連携をしっかりと取っていただいて、小学生からでも別に早くはないと思うんですよ。人の命に係わる仕事って一体どういうことなのか、そういうことで病院と学校連携、特に中学生になればその先に進路というような問題も出てきますので、そういう意味で、この地域にある北信病院との教育上の意味での連携をぜひお進めをいただいて、医療をしっかりと考えることができるまちづくりというものを共に進めていっていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

5 閉会 (4:05)